



# 八幡家(?)の食卓



センター試験は時間との闘い。どうしても時間切れで十分な解答時間をとれない場合、知っておくと便利な「裏技」を紹介する。しかしこれはあくまでも最後の最後の手段であって、やはりあくまで正攻法で攻めるべきであることは言うまでもない。

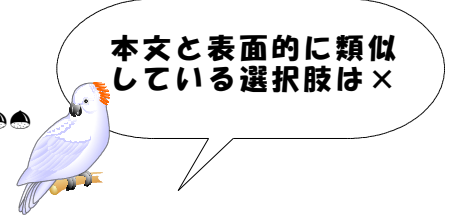
★印は特に有効技

## ① 「長さの法則」★

選択肢の中で一番長いものが正解であることが多い。これは出題者が完璧な選択肢を目指そうと情報の追加をするため必然的に長くなりがちなのだ。逆に一番短い選択肢は誤りであることがほとんど。しかし最近は出題者も裏をかく場合が出てきた。▲▲▲

## ② 「仲間はずれの法則」

一つだけ毛色の変った選択肢があればそれが怪しい。+++と-があれば当然一つだけの-が正解だ。▲▲▲



## ③ 「オウムがえしの法則」★

本文と全くうりふたつの選択肢は間違いであることが多い。出題者が受験生をひっかけにきていると思え。選択肢に本文そのままの部分を入れることで正解らしく見せるといふだましのテクニックだ。一見正解に見えるものから消去していくとよい。本文と表面的に類似している選択肢は×。ニセの選択肢はなるべく本文に似せ、正解はなるべく似ないようにするのが出題者の心理(「同一内容異表現の原則」)。▲▲▲

## ④ 「隠しのテクニック～解釈の法則」

選択肢の正解には特徴がある。なるべく本文そのままではなく解釈になっているということ。つまり同じ単語や構文は使わないで、別の表現で説明をした文章が怪しいということになる。正解の選択肢が受験生にすぐ分からないようにするために、なるべく本文と表面的に似ないように作られるという出題者の心理を見破れ! 正解は本文の巧妙な言い換えだ! ▲▲▲

## ⑤ 「付け足しの法則」★

正しい内容にちょっとだけ間違った要素を付け足すことで×の選択肢を作るというテクニックを出題者はよく使う。その部分がなくても成り立つような付け足し部分があれば、その部分がくっついていることで選択肢が×になりやすくなっている。すり替えに注意だ。▲▲▲

## ⑥ 「対立・共立の法則」(8択から3つを選ぶBの問題で有効!) ★

選択肢の中に対立する内容のものがあればそのどちらかが正解である。逆に同じ話題のものがあれば正解になるのは1つだけ。同じ話題の選択肢が複数正解になることはまずない。また同じ登場人物(主人公は除く)が出てくる選択肢の中には正解は1つ以下しかない。また他の選択肢との共通部分が一番多い選択肢が正解となる。出題者はまず最初に正解の選択肢を作ってから、それと紛らわしい選択肢を作るのだ。▲▲▲

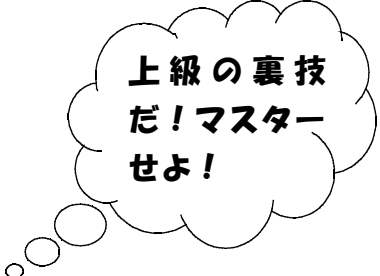
## ⑦ 「極端の法則」★

ニセの選択肢を作るときに、正しい内容を極端にするという手がよく使われる。no/never や only や always や all/every などをつけて極端なことを述べている選択肢は全て×。極端なことを言っている選択肢はまず×と思ってよい。近い内容で、極端なもの、極端でないもの、極端じゃないものが正解だ。▲▲▲

## ⑧ 「すり替えの法則」

本冊子で解説した通り、9つのパターンがある。すり替えのパターンを見破れ! ▲▲▲

- (1) 「人物のすり替え」
- (2) 「肯定・否定の逆転」
- (3) 「時間・場所・頻度の副詞要素のすり替え」
- (4) 「数量表現・数量のすり替え」
- (5) 「因果関係のすり替え」
- (6) 「条件関係のすり替え」
- (7) 「過度の一般化と過度の限定」
- (8) 「事実と比喩のすり替え」
- (9) 「前半○後半×のパターン」



## ⑨ 「含む・含まれるの法則」

- (1) 顔のいい男
- (2) 金もなく、性格も悪く、暴力をふるう、顔のいい男

(2)は(1)に含まれる。こういう「含む・含まれる」関係があるときは、含むほうが正解である。なぜならもし(2)が正解なら、それよりも意味が広く、(2)を内に含む(1)も×ではありえないからだ。正解が2つあるはずはないからこれはオカシイ。上級の裏技です。▲▲▲

## ⑩ 「選択肢減らしの術」(消去法) ★

常識的に明らかにオカシナ内容の選択肢は消去してしまいましょう。分母を少なくすることでグ〜ンと正答率が上がります。選択肢を読んで常識的にオカシナものがあったら、もうその時点で×と思え。バカバカしい選択肢も×。平凡すぎる選択肢も×。▲▲▲